



つじもと たろう
辻本 太郎さん

桜井高校カヌー部に所属する辻本太郎さんは、島根県で行われた令和7年度全国高等学校総合体育大会カヌー競技大会男子K-1 200mで優勝しました。奈良県勢のカヌー競技優勝は初の快挙です。

辻本さんがカヌーを始めたのは高校に入ってから。先輩に誘われて始めた部活動体験で、風を切り、水しぶきを浴びる迫力ある体験に魅了されました。

入部から今を振り返って、「始めたばかりの頃は、前に進むだけで水に落ちていました」とにこやかに話す辻本さん。カヌーの上達には厳しい練習が欠かせません。頂点を目指すため、指導経験豊富な越水先生の指導は時に厳しくなることも。どんな時も支えになったのは、同級生の吉岡さん。「自分一人でここまで来ることはできなかった」と仲間の存在の大きさを語ります。

そして迎えた全国の舞台。コンディションの良さも味方し、見事優勝を勝ち取ります。部活動はもちろん、学業も手を抜くことがなかった辻本さん。「凡事徹底」、桜井高校カヌー部の部訓を胸に努力した日々が花開いた瞬間です。

「自分の実力に満足したことはないです。これからもより上を目指していきたい」と話す辻本さん。来年からは大学で日本代表、オリンピックを目指し、新たな道へ漕ぎ出します。

発掘調査現場から (315)

近くに工房か？^{つかがしら}柄頭出土！ ～纏向遺跡第205次調査～

纏向遺跡の範囲拡大の様子が確認された205次調査(令和7年11月号掲載)では、調査区南側の土坑から3世紀後半の木製漆塗り^{つかがしら}柄頭も見つかりました。

出土した土坑の全体の形は不明ですが、幅3.6m以上の円形または楕円形状だったと考えられます。深さは約50cmで、調査時には底面付近に、木の削りくずなどが多く含まれた腐植土が全体に堆積していました。

^{つかがしら}柄頭はこの腐植土の中から出土しました。大きさは縦が約9cm、幅が約5cmで全体が漆で塗られており、持ち手の部分は少なくとも2か所が帯状に赤く塗られていました。

205次調査のすぐ北側で行われた195次調査

では、木製の柄や^{さや}鞘などの刀剣装具が多数出土しました。しかし、ほとんどは白木のもので、漆を塗った上にさらに赤く彩色しているものは見つかりません。

周辺の調査結果と合わせると、この一帯では刀剣装具を使った祭祀や、刀剣装具そのものを製作していた工房などがあった可能性が考えられます。



▲木製漆塗り柄頭が出土した様子